



表3 単純集計(全体)

	問6A:A 総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。	問6B:B 給料や報酬に満足している。	問6C:C 毎日の仕事「楽しい」と感じられる。	問6D:D 自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。	問6E:E 勤務時間(長さ、時間帯)に関する不満はない。	問6F:F 自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。	問6G:G 現在の職場の人間関係に満足している。	問6H:H 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。	問6I:I 今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。	問6J:J 今後の自分の将来について、明るい希望を持っている。	問6K:K 今後の勤務先の将来(経営など)について、明るい希望を持っている。	問6L:L 20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。	問6M:M 20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】	問6N:N 20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。
4 全くそう思う	10.7	10.7	8.5	18.8	20.8	10.2	16.7	0.7	20.8	8.5	6.9	20.5	17.9	18.9
3 どちらかと言えばそう思う	45.2	33.7	39.6	46.1	37.7	51.0	48.7	10.7	19.8	29.8	27.5	40.9	29.0	32.4
2 どちらかと言えばそうではないと思う	28.6	31.0	35.3	24.7	23.4	31.0	25.7	49.4	31.9	42.8	46.5	23.4	28.0	32.1
1 全くそうではないと思う	15.4	24.6	16.6	10.4	18.2	7.8	8.9	39.2	27.4	18.9	19.0	15.3	25.0	16.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## (1) 給料、報酬

まず、「問6A:A 総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。」に対する回答は、「全くそう思う(以下、4とする)、どちらかと言えばそう思う(以下、3とする)どちらかと言えばそうではないと思う(以下、2とする)、全くそうではないと思う(以下、1とする)」の順に、「10.9, 46.1, 24.9, 18.1」(単位は%、以下同、おいらせ町)、「10.6, 44.4, 32.4, 12.7」(むつ市)、「10.7, 45.2, 28.6, 15.4」(全体)となり、半数強の人が肯定的な意見を持っていることが分かった。

ただし、給料や報酬に関しては、「問6B:B 給料や報酬に満足している。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「9.1, 28.8, 27.4, 21.2」(おいらせ町)、「10.9, 34.2, 30.3, 24.6」(むつ市)、「10.7, 33.7, 31.0, 24.6」(全体)となり、肯定的な意見を持っている人は半数弱にとどまった。この項目は、仕事に関する評価の中で最も否定的な結果が出ており、それは個人所得の低さに起因していると考えられる(後述)。

## (2) やりがい、人間関係、勤務時間

一方、給料、報酬とは別に、「働きやすさ」の点から考えると、さほど否定的な評価ではなかった。

まず、いわゆる「やりがい」について見ていきたい。「問6D:D 自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「18.4, 47.3, 23.1, 11.2」(おいらせ町)、「19.2, 44.8, 26.3, 9.6」(むつ市)、「18.8, 46.1, 24.7, 10.4」(全体)と、60%強の人が仕事の「やりがい」を認めている。また、「問6F:F 自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。」に対しては、「4、3、2、1」の順に、「10.9, 50.9, 31.4, 6.8」(おいらせ町)、「9.5, 51.1, 30.6, 8.8」(むつ市)、「10.2, 51.0, 31.0, 7.8」(全体)と、これも60%強の人が、承認感を得ている。

続いて、職場の人間関係について見ていきたい。「問6G:G 現在の職場の人間関係に満足している。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「18.2, 46.7, 26.8, 8.2」(おいらせ町)、「15.1, 50.7, 24.6, 9.5」(むつ市)、「16.7, 48.7, 25.7, 8.9」(全体)と、約65%の人が職場の人間関係には満足している。

続いて、勤務時間について見ていきたい。「問6E:E 勤務時間(長さ、時間帯)に関する不満はない。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「19.7, 38.4, 25.5, 16.3」(おいらせ町)、「21.8, 37.0, 21.1, 20.1」(むつ市)、「20.8, 37.7, 23.4, 18.2」(全体)と、6割弱の人が勤務時間について不満を持っていない。

やりがい、人間関係、勤務時間と、「働きやすさ」の観点からは、さほど否定的な結果は出なかったと言える。

### (3) 仕事の楽しさ

ただし、「働きやすさ」についての調査結果と対照的に、仕事の「楽しさ」については、あまり肯定的な評価が見られなかった。

「問6C：C 毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。」に対しては、「4、3、2、1」の順に、「9.2, 39.1, 34.0, 17.7」（おいらせ町）、「7.7, 40.1, 36.6, 15.5」（むつ市）、「8.5, 39.6, 35.3, 16.6」（全体）と、仕事に「楽しさ」を感じている人は半数弱にとどまった。

「働きやすいが給料がよくないため仕事が楽しくない」ということは、「ダウンシフター」的な考え方が弱いこと（後述）とも関係するだろう。いずれにせよ、若者が「働きやすさ」だけでないものを求めていることは確かであり、それは社会の「下部構造」（経済的な基盤）の問題である。

### (4) 未来への展望

「下部構造」の脆弱さは、若者たちの未来に対する不安感を強めている。

自分自身のキャリアに関しては、「問6J：J 今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「8.5, 29.4, 42.3, 19.8」（おいらせ町）、「8.5, 30.3, 43.3, 18」（むつ市）、「8.5, 29.8, 42.8, 18.9」（全体）と、6割強の人が不安を抱いている。また、勤務先の将来性についても、「問6K：K 今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「6.5, 29.3, 44.9, 19.4」（おいらせ町）、「7.4, 25.7, 48.2, 18.7」（むつ市）、「6.9, 27.5, 46.5, 19」（全体）と、6割を大きく上回る人が不安を持っている。また、日本企業に特徴的な年功序列制度についても、「問6N：N 20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「17.7, 31.1, 36.2, 15」（おいらせ町）、「20.1, 33.8, 27.8, 18.3」（むつ市）、「18.9, 32.4, 32.1, 16.6」（全体）と「年功序列」という考え方自体、若者の間でかなり衰退していることが分かった。

若者が仕事に関してあまりよい未来を描けていないことは憂慮すべき事態だが、救いは、転職に対して、積極的な姿勢が見られたことである。

それは、仕事をすっかり変えてしまうという訳ではないが（「問6L：L 20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。」に対しては、6割弱の人が肯定的な答えをしている）、よりよい条件の職場があれば、転職しようとする意欲は高いということである。

「問6I：I 今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。」に対しては、「4、3、2、1」の順に、「21.2, 22.3, 29.8, 26.7」（おいらせ町）、「20.4, 17.3, 34.2, 28.2」（むつ市）、「20.8, 19.8, 31.9, 27.4」（全体）、「問6M：M 20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】」に対しては、「4、3、2、1」の順に、「17.8, 27.7, 28.1, 26.4」（おいらせ町）、「18, 30.4, 27.9, 23.7」（むつ市）、「17.9, 29, 28, 25」（全体）と、半数以上の若者たちが転職について積極的に考えており、転職への意志は強いことが分かった。このことは、「よい仕事があれば移動をいとわない」ということでもあり、キャリアをめぐるトランスローカリティ研究の重要性を示唆していると言えるだろう。

### (5) 魅力的な仕事

本節の最後に、問6において、おいらせ町とむつ市で注目すべき大きな差があった項目について確認しておく。

「問6H：H 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。」に関して、おいらせ町とむつ市の間では、有意な差があった（T検定： $p < .001$ ）。このことは、雇用という点での若者の地域へのプル要因が、おいらせ町（「まち」）がむつ市（「いなか」）よりも強いことを示している。これは、雇用をめぐる「まち」と「いなか」の顕著な違いと言えるだろう（ただし、年収には大きな差はなく（後述）、また、満足度等のスコアも大差ないことには注意すべきである）。

## 5-2. 仕事と余暇の関係

続いて、仕事と余暇についての項目を、おいらせ町、むつ市、全体の調査結果を使って概観していく。ここでは、ダウンシフター志向の弱さと余暇志向の強さ、ドメスティック志向でありつつもモビリティは高いという若者の姿が浮かび上がってきた。

本節と次節では、問7と問10（A～C）、F16（A～E）の調査結果をもとに考えていきたい（表4-9）。

表4 単純集計（おいらせ町）

	問7A:A 満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B:B やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C:C やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D:D 女性は子どもができて、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E:E 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F:F 子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G:G 一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
4 全くそう思う	15.9	5.7	10.1	13.2	2.4	6.8	14.6
3 どちらかと言えばそう思う	37.7	21.4	27.8	54.4	10.2	18.8	36.6
2 どちらかと言えばそうではないと思う	29.3	47.9	39.4	26.4	45.5	44.6	28.3
1 全くそうではないと思う	17.1	25.0	22.7	6.0	41.9	29.8	20.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5 単純集計（むつ市）

	問7A:A 満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B:B やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C:C やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D:D 女性も子どもができて、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E:E 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F:F 子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G:G 一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
4 全くそう思う	23.9	7.0	14.3	15.8	2.7	7.9	16.4
3 どちらかと言えばそう思う	33.0	16.7	30.1	47.7	14.2	21.0	34.5
2 どちらかと言えばそうではないと思う	32.7	50.3	35.3	28.9	40.6	46.8	27.3
1 全くそうではないと思う	10.3	26.1	20.4	7.6	42.4	24.3	21.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表6 単純集計（全体）

	問7A:A 満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B:B やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C:C やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D:D 女性も子どもができて、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E:E 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F:F 子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G:G 一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
4 全くそう思う	19.9	6.3	12.2	14.5	2.6	7.4	15.5
3 どちらかと言えばそう思う	35.4	19.1	28.9	51.1	12.2	19.8	35.6
2 どちらかと言えばそうではないと思う	31.0	49.1	37.3	27.6	43.1	45.7	27.8
1 全くそうではないと思う	13.7	25.5	21.5	6.8	42.2	27.1	21.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(1) ダウンシフター志向の弱さ

轡田竜蔵は、広島での調査をもとに「ダウンシフターは主流ではない」（轡田2017: 265）と述べているが、その点は、この調査でも同様の結果を得た。

まず、「問7B:B やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。」に対しては、「4、3、2、1」の順に、「5.7, 21.4, 47.9, 25」（おいらせ町）、「7, 16.7, 50.3, 26.1」（むつ市）、「6.3, 19.1, 49.1, 25.5」（全体）と、約4人に3人が否定的に答えており、「問7C:C やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。」に対しても、「4、3、2、1」の順に、「10.1, 27.8, 39.4, 22.7」（おいらせ町）、「14.3, 30.1, 35.3, 20.4」（むつ市）、「12.2, 28.9, 37.3, 21.5」（全体）と、約6割の人が否定的な反応を示した。また、「問10B:B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。」に対しても、「4、3、2、1」の順に、「3.9, 31.3, 44.6, 20.2」（おいらせ町）、「6.3, 31.3, 44.8, 17.6」（むつ市）、「5.1, 31.3, 44.7, 18.9」（全体）と、6割強の人が否定的で、「問10C:C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。」に至っては、「4、3、2、1」の順に、「3, 16.7, 50.3, 30.1」（おいらせ町）、「2.7, 14.4, 52.4, 30.5」（むつ市）、「2.8, 15.5, 51.3, 30.3」（全体）と、8割強の若者が否定的な反応を示した。

以上の調査結果は、若者たちのダウンシフター志向の弱さを示していると考えられる。彼らは、「お金がなくてもやりがいがあればいい」などとは思っていないのである。

表7 単純集計

	おいらせ町			むつ市			全体		
	問10A:A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B:B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C:C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。	問10A:A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B:B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C:C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。	問10A:A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B:B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C:C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。
4 全くそう思う	22.6	3.9	3.0	23.0	6.3	2.7	22.8	5.1	2.8
3 どちらかと言えばそう思う	44.0	31.3	16.7	47.5	31.3	14.4	45.8	31.3	15.5
2 どちらかと言えばそうではないと思う	28.0	44.6	50.3	26.9	44.8	52.4	27.4	44.7	51.3
1 全くそうではないと思う	5.4	20.2	30.1	2.7	17.6	30.5	4.0	18.9	30.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## (2) 余暇への志向の強さ

注目すべきは、「問7A:A 満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。」に対して、「4、3、2、1」の順に、「15.9, 37.7, 29.3, 17.1」（おいらせ町）、「23.9, 33, 32.7, 10.3」（むつ市）、「19.9, 35.4, 31, 13.7」（全体）と答えていることである。彼らは「ダウンシフター」志向が弱いからといって、「長時間労働・高収入」への志向もあまり強くない。

このことは、余暇への志向の強さと関係している。「問10A:A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。」に対する回答は、「4、3、2、1」の順に、「22.6, 44, 28, 5.4」（おいらせ町）、「23, 47.5, 26.9, 2.7」（むつ市）、「22.8, 45.8, 27.4, 4」（全体）と、65%以上の方が仕事より余暇を優先させる志向をもっていた。

余暇の楽しみ方のひとつとして、県外地域や大都市、外国への旅行が考えられるが、頻度としては、外国→大都市→県外地域の順に多かった。注目すべきは、「海外」の頻度の低さである。「出かけていない」人が、95.7%（おいらせ町）、95.5%（むつ市）と、若者たちのドメスティックな余暇志向が浮き彫りになった。

現代の若者たちの消費活動の中心であるショッピングモール等の大型商業施設に関しては、「現住所の自治体の中にある大型商業施設」だけでなく「現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設」にもよく出かけていることが分かった。これは、若者たちの余暇活動におけるモビリティの高さを示していると考えられる。しかし、「現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設」に行く頻度として「週に数日程度」、「月に数日程度」と答えている若者が、おいらせ町では44.4%、むつ市では35.9%と、有意な差があったことから（T検定:p<.001）、モビリティでは克服できない「まち」と「いなか」の格差も浮き彫りになった。

表8 単純集計

	おいらせ町					むつ市					全体				
	F16A : 現住所 の自治 体の中 にある 大型商 業施設	F16B : 現住所 の自治 体の外 にある 県内の 大型商 業施設	F16C : 国内の 県外地 域	F16D : (F16C のうち) 首都 圏・関 西圏な どの国 内の大 都市	F16E : 日本国 外	F16A : 現住所 の自治 体の中 にある 大型商 業施設	F16B : 現住所 の自治 体の外 にある 県内の 大型商 業施設	F16C : 国内の 県外地 域	F16D : (F16C のうち) 首都 圏・関 西圏な どの国 内の大 都市	F16E : 日本国 外	F16A : 現住所 の自治 体の中 にある 大型商 業施設	F16B : 現住所 の自治 体の外 にある 県内の 大型商 業施設	F16C : 国内の 県外地 域	F16D : (F16C のうち) 首都 圏・関 西圏な どの国 内の大 都市	F16E : 日本国 外
4週に数 日程度	32.1	7.5	0.6	0.6	0.0	23.7	3.3	1.2	0.6	0.0	27.9	5.4	0.9	0.6	0.0
3月に数 日程度	53.2	36.9	8.1	1.5	0.0	43.8	32.6	6.3	2.7	0.0	48.5	34.8	7.2	2.1	0.0
2年に数 日程度	11.7	42.6	66.3	41.0	4.3	15.3	54.2	57.5	41.4	4.5	13.5	48.4	61.9	41.2	4.4
1出かけ ていない	3.0	12.9	25.0	56.8	95.7	17.1	9.9	34.9	55.3	95.5	10.1	11.4	30.0	56.0	95.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

### 5-3. 性別役割分業規範

続いて、性別役割分業規範について見ていきたい。結論から先に述べると、この点に関しては、保守的な傾向は見られず、かなりリベラル寄りであった。これは、轡田による広島調査より、さらに明確な結果が出ている（同：268）。

「問7D：D 女性は子どもができて、ずっと職業を続けるほうが良いと思う。」に対する回答は、「4、3、2、1」の順に、「13.2, 54.4, 26.4, 6」（おいらせ町）、「15.8, 47.7, 28.9, 7.6」（むつ市）、「14.5, 51.1, 27.6, 6.8」（全体）と、6割強の若者が女性の就業継続に対して肯定的な評価であった。このことは、個人年収の低さや産業のサービス化（後述）も関係しているだろう。

また、「問7F：F 子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。」に対する回答を見ても、「4、3、2、1」の順に、「6.8, 18.8, 44.6, 29.8」（おいらせ町）、「7.9, 21, 46.8, 24.3」（むつ市）、「7.4, 19.8, 45.7, 27.1」（全体）と、7割を超える若者が否定的で、「問7E：E 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。」に対する回答に至っては、「4、3、2、1」の順に、「2.4, 10.2, 45.5, 41.9」（おいらせ町）、「2.7, 14.2, 40.6, 42.4」（むつ市）、「2.6, 12.2, 43.1, 42.2」（全体）と、8割以上の若者が否定的であった。

注目すべきは、「問7G：G 一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。」に対する回答が、「4、3、2、1」の順に、「14.6, 36.6, 28.3, 20.5」（おいらせ町）、「16.4, 34.5, 27.3, 21.8」（むつ市）、「15.5, 35.6, 27.8, 21.2」（全体）となったことである。賛成、反対がちょうど約半分ずつにわかれたこの結果は、「専業主婦を前提とした性別役割分業規範は（現実的に無理なので）衰退しているが、あくまで男性が主たる稼ぎ手であるという意味で、解体はしていない」と解釈することもできるだろう。しかし、約半分はこの考え方を否定しているという点を重視すると、解体に向けた過渡期的な現象と見ることもできる。何れにせよ、一般に思われている「地方は保守的だ」というステレオタイプを覆す調査結果であることは間違いない。

しかし、（容易に想像できることではあるが）全体では全ての項目において（問7のEではT検定： $p < .01$ ）、おいらせ町では問7のD（T検定： $p < .05$ ）、F、G（T検定： $p < .01$ ）において、むつ市では問7のDにおいて男女差があった（T検定： $p < .01$ ）。

### 5-4. 所得、労働時間

続いて、所得と労働時間について、従業上の地位に注目しつつ、見ていきたい。

従業上の地位に関する結果（表9）を見ると、まず、いわゆる「主婦パート」が5%以下と、かなり少ないことが分かる。このことは、未婚率の高さに関係しているだろう。また、役員・経営者・自営業の数も3%と、かなり少ない。この地域で「雇用社会化」が進んでいることが伺える。また、「主婦パート」以外の非正規雇用者の数は約15%と多く、雇用の非正規化が進んでいることも分かる。

こうした層に関しては、（家庭の事情で働く時間を制限せざるをえないといった）様々な事情も考えな

くてはならないため、雇用の「質」を測る客観的な指標である、所得と労働時間に関しては、正社員に絞って見ていきたい。

表9

	おいらせ町	むつ市	全体
仕事を主にしている、正規雇用（フルタイム）の仕事で収入を得た	67.5	64.2	65.9
仕事を主にしている、自営業主またはその家族従業員として収入を得た	3.0	2.4	2.7
仕事を主にしている、会社経営者または役員として収入を得た	1.2	2.4	1.8
仕事を主にしている、パート・アルバイト・派遣・有期契約の非正規雇用の仕事で収入を得た	14.8	12.4	13.6
家事を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もして収入を得た	3.0	4.5	3.8
通学を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もして収入を得た	1.8	0.9	1.4
家事を主にしている、仕事で収入を得ていない	4.8	7.9	6.3
通学を主にしている、仕事で収入を得ていない	1.8	2.1	2.0
家事も通学もしておらず、仕事で収入も得ていない	2.1	3.0	2.6
合計	100.0	100.0	100.0

個人所得に関しては、おいらせ町、むつ市ともに中央値が300万円代となっている（表10）。こうした状況が、先に見た給料、報酬に対する不満の強さに結びついていると考えられる。労働時間に関しては、47.971時間（おいらせ町）、49.52時間（むつ市）、48.72時間（全体）となっており、長時間労働が常態化していることが見てとれる（法的には40時間以上が「長時間労働」とされる、表11）。これは、先の調査結果（「問6E：E 勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。」に対する肯定的な評価）と矛盾しているようだが、同問の回答の平均値をとったところ、おいらせ町においては、2.53（正規雇用）、3.31（役員・経営者・自営業）、2.80（非正規雇用）、むつ市においては、2.55（正規雇用）、3.00（役員・経営者・自営業）、2.71（非正規雇用）と、正規雇用に関して、労働時間に関する不満がもっとも高いことが分かった。この点に関しては、正規雇用者は例外と考えるべきかもしれない。しかし、それでもスコアは半分（2.5）を上回っており、そこから若者の長時間労働に対する「慣れ」を指摘することもできるだろう。

表10

	おいらせ町	むつ市	全体
100万円未満	0.9	0.9	1.0
100万円台	9.5	15.9	12.7
200万円台	29.4	27.9	28.6
300万円台	28.4	28.4	28.4
400～500万円台	24.9	22.6	23.7
600～700万円台	6.5	3.8	5.1
800～900万円台	0.4	0.5	0.5
合計	100.0	100.0	100.0
N	201	208	409

表11 収入のある仕事に費やしている時間（週合計）

地域	平均値
おいらせ町	47.97
むつ市	49.52
全体	48.72

### 5-5. 業種 -おいらせ町、むつ市の特殊性

最後に、業種に関して見ていきたい。

表12において、1割を越えている業種を見ていくと、医療・福祉（病院・医療施設、保育所、介護事業、

社会福祉事務所等)は、20.7% (おいらせ)、18.8% (むつ)、卸売・小売 (物品の販売を行っている店舗、事業所等)は、12.7% (おいらせ)、12.1% (むつ)と、高齢化、サービス産業化という、世の中の趨勢を反映した調査結果が出ている。

表12 業種

	おいらせ町	むつ市	全体
農林漁業・鉱業	3.7	1.1	2.4
建設業	7.7	9.6	8.6
製造業	12.0	3.9	8.1
電気・ガス・熱供給・水道	2.3	2.8	2.6
情報通信	0.7	1.8	1.2
運輸・郵便 (旅客運送、貨物運送、郵便配達等)	2.7	1.8	2.2
卸売・小売 (物品の販売を行っている店舗、事業所等)	12.7	12.1	12.4
金融・保険	1.7	1.8	1.7
不動産・金品売買	2.0	1.1	1.5
飲食店・宿泊サービス	5.7	5.3	5.5
生活関連サービス (美容院、クリーニング店、スポーツ施設、娯楽施設等)	4.3	4.3	4.3
専門技術サービス (研究所、デザイン事務所、法律事務所、経営コンサルタント等)	1.0	1.4	1.2
その他のサービス (農業協同組合、自動車整備、各種の修理業等)	3.0	3.2	3.1
教育・学習支援 (学校、幼稚園、図書館などの社会教育機関、学習塾等)	8.0	3.5	5.8
医療・福祉 (病院・医療施設、保育所、介護事業、社会福祉事務所等)	20.7	18.8	19.8
上記に分類されない公務員	8.3	23.8	15.8
その他	3.7	3.9	3.8
合計	100.0	100.0	100.0

両者の大きな違いは、製造業 (12% <むつ>, 3.9% <おいらせ>) と上記に分類されない公務員 (8.3% <むつ>, 23.8% <おいらせ>) である。製造業に関しては、工業都市である八戸に近いこと、上記に分類されない公務員に関しては、海上自衛隊の大湊基地に近いことが理由として考えられる。この違いが調査結果に与える影響に関しては、今後の課題としたい。

#### 参考文献

轡田竜蔵2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房